

ベニクラゲ再生生物体験研究所（紅研） 訪問と番所山散策

（記録）

- 1：日 時 2019年2月7日（木） 7時45分～18時
- 2：集合場所 大阪城公園駅下
- 3：目的地 ベニクラゲ再生生物体験研究所・京都大学白浜水族館・番所山トレッキング・とれとれ市場買い物・南方熊楠顕彰館
- 4：参加者 20名（浅野・乾・金戸・叶・上條・児玉・小松・坂根・西井・日景・藤井・前野・万井・杢三・山田・山本・伊藤）
お友達作戦での参加～後藤・西田・川端 （敬称略）

5：活動内容 早朝7時45分大阪城公園駅に集合しバスに乗り込み1つ目の目的地である、ベニクラゲ再生生物体験研究所のある、和歌山県白浜町に向け出発。朝のうちはどんより曇っていたが、徐々に天気が良くなり、暖かさを通り越して、暑く感じる1日となった。

***ベニクラゲ（不老不死のクラゲ）**～大きくても、傘の直径10mm程度の小さなクラゲである。体の紅色の部分がよく目立ち、名前の由来になっている。クラゲ類は、一般に固着生活するポリプ世代と、浮遊生活するクラゲ世代を交互に繰り返す。固着したポリプの体の一部から出芽によりクラゲが放出される。クラゲはオスやメスに成長し有性的に卵と精子を作り、両者が合体した受精卵がポリプに成長する。通常のクラゲは、卵や精子を出し終わった後は死に至るが、ベニクラゲは、成長したクラゲが痛めつけられると、ポリプに戻る「若返り」が観察されている。



***白浜水族館**～京都大学の臨海実験所の附属施設で、1930年に開館した。第1水槽室・入ってすぐ、水量240トンの大水槽では、大型回遊魚とサメが飼育されている。第2水槽室・無脊椎動物が約250種展示。第3水槽室・季節の生き物や珍しい生き物の展示。第4水槽室・魚類の展示が中心。

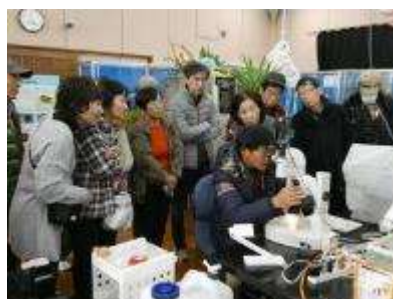


***番所山公園**～ここで昼食。素晴らしい景観と豊かな自然環境が残されている。番所山奥の灯台（番所鼻灯台）前広場には展望塔が設置され、360度の大パノラマを楽しんだ。



***とれとれ市場**～沢山試食をし、お腹一杯になる。目を輝かせて買い物に没頭？している人も。

***南方熊楠**～和歌山県が生んだ博物学の巨星。19歳から14年間、アメリカ、イギリスなどへ海外遊学。さまざまな言語の文献を使いこなし、国内外で多くの論文を発表した。研究の対象は、「粘菌」をはじめとした生物学のほか、人文科学等多方面にわたり、民俗学分野では、柳田国男とも並ぶ重要な役割を果たした。地域の自然保護にも力を注いだ。



写真～坂根・叶
文責～伊藤